

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
道徳教育論 The Theory of Moral Education		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養フィールドの教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
松崎勇人	本館2階	講義のない時間	授業中に指示します	
授業の概要				
道徳性とは何なのか、道徳性を養うとはどのようなことを意味するのか。教科道徳(の時間)を中心として学校教育全体で道徳性を養うために、どのようにしたらいいのかについて考える。自己の道徳教育実践を理論的視点から、歴史的視点から反省する。				
授業の目標				
①道徳の意味と道徳性の育成が客観的に述べられるようにする。 ②道徳教育の理論の要点と、その長所と短所を述べることができるようにする。 ③日本の道徳教育の歴史、近年の課題と改善の方向性と共に、文部科学省が示す改善策について述べられるようにする。 ④学校教育全体での道徳の指導計画を確認し、指導方法を工夫して教科道徳(の時間)の指導案を作り実施できるようにする。				
授業の方法				
道徳教育に関するテーマについて討論することを取り入れる。板書を中心とした講義形式でそれらを補う。道徳の指導法について自ら考え、構想する機会を持つ。課題については別途示す。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育実習の場で道徳教育(の時間)を担当し、最低限の効果を上げられる。 (2) 自己の道徳教育実践を客観的に反省できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、道徳、道徳教育と聞いて思いつくことは？			
第2回目	日本の道徳教育の歴史			
第3回目	日本の道徳教育の歴史			
第4回目	中学校「道徳」改訂の基本方針			
第5回目	中学校「道徳」の目標			
第6回目	中学校「道徳」内容の解説(自分自身に関すること)			

第7回目	中学校「道徳」内容の解説（他の人とのかかわりに関すること）	
第8回目	中学校「道徳」内容の解説（自然や崇高なもののかかわりに関すること）	
第9回目	中学校「道徳」内容の解説（集団や社会のかかわりに関すること）	
第10回目	中学校「道徳」の指導計画の作成と内容の取扱い	
第11回目	指導案の作り方 レポート（提出は第14回目の授業日）	
第12回目	道徳の全体計画の構造的理解、指導体制	
第13回目	道徳教育の方法と評価	
第14回目	代表的道徳教育論（デューイ等）	
第15回目	代表的道徳教育論（コールバーグ等）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	70%	道徳の時間の指導案を作って提出する。最高水準としては、選択したテーマについて多面的に考えた上で、評価方法を含む指導計画を綿密に立てていること、オリジナルな発想があること等を評価基準とする。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「中学校学習指導要領 解説―道徳編―」文部科学省。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。		